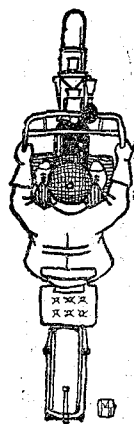


通信

歐洲から故國へ



神奈川縣技師 平川保一

十月二十日愈々巴里を後に歸國の途に就いた、十二月一日ナポリで諏訪丸乗船まで十二日間。最後の歐洲旅行は同伴者があつたのでお互に心強く呑氣ではあつたが、大分懐が淋しくなつてゐたので、ほんとの貧乏旅行であつた。

途中佛國のリヨン、マルセイユ、モナコのモンテカロ、伊太利のゼノア、ミラノ、ヴェニス、フロレンス、ローマ及ナポリの諸都市に寄つた、佛國で巴里に次ぐ大都市で且

商工業の中心たるリヨンではローン河筋に橋梁の多かつた（主として鐵拱橋で混凝土拱橋及サスペンション橋の簡單なものも若干あつた）外には大して印象に残る程のものも見當らなかつた、道路も其の全部が、石塊鋪裝の舊式であつた。バリーからマルセイユまでの汽車中から眺めた南佛氣分の感想としては、家屋が貧弱で小さく壁は多く土石混合造りで窓が小さく石積の塀が、至る所に作られてゐる模

様などは、日本の舊都奈良の近郊を思はしめた、然しローン河の緩かな流れと所々に美しく架せられたサスペンションブリッジ、傾斜地一面に栽培された葡萄畑、眞直に細長く伸びたボブラ樹の多いことなどは飽かぬものであつた、道路は概して北佛より悪いやうで、舗装しないものが多く恰も雨後で排水が悪く、日本のやうに洪水泥濘の形態を見た、然し時々幹線と思はるゝ立派なアスファルト道路の走つてゐるのも隠見された、鐵道線路上オーバークロスの道路に此國特有のメイソンリー、アーチを多く架せるは北佛に見たのと同じであつた。

マルセイユは流石に地中海岸第一の港だけに其の首腦が港にあるは勿論で防波堤の偉大にしてそれを利用した荷揚設備及堤上のプロメナードは實に立派なもの道路は港の特徴として矢張石塊舗装が多い港の一角にある（塔橋高く架した橋に箱を吊して一端から他端に運ぶ）とノートルダム上に昇るケールブルカーとは、マルセイユの二名物であらう。

マルセイユからニース、モンテカローを経て、伊太利に

至る地中海岸の風光やモナコ、モンテカローの賭博場等に就ては紹介されて居るから此處に省くとして、ツーロン停車場附近で鐵道跨線の鐵筋混凝土桁橋が立派で、殊に兩外側の蛇腹の形及其の仕上が見事であつた、伊太利近くになつて鐵筋混凝土の船が海岸に遺棄されてゐるのを見たが、大戦中の遺物であらう、鐵道橋にラチス、ツラスを非常に澤山見た、海岸の道路は概して悪く多く砂利道で伊太利に入つて一層悪い様に思はれた、此附近海岸道路の状態は波浪の爲、護岸の壞れたる有様は我國神奈川縣下の鎌倉、江の島海岸の府縣道又は小田原、熱海間海岸道路に好く似た所と思はれた尙道路で面白いのは兩側車止の構造で、圓錐形の石の頭部を一尺位出す程度に埋め込んで居るのが見られた伊太利各都市は歴史的に美術的に有名であるので、伊太利旅行、外國人の大部分が是等の見物者であることは言ふ迄もない。

ゼノアは地中海に於て、中古ヴェニスの繁榮を奪つてから、今はマルセイユに次ぐ港で規模は之に及ばないが相當

に立派であり、車道は大部分石鋪装で其の特徴としては大形の板石を斜に鋪いてあつた、是は繁華な中心地の一部に限られたものであつたが、歩道上にバルコニト式の屋根を作り其の柱に立派な大理石を用ひ、歩道の鋪装は綺麗な色模様のモザイクを用ひてあるなど驚かされた、然しゼノアの町は古くから發達したので概して狭く歩道の區別がない所が大分ある、又或る場所では車道上に街路樹が植えられて居て、それで樹の痛められるのを防ぐために其の周圍の保護は念の入つたものであつた山の手には砂利道も可なりあつたが山腹を縫ふて巉々屈曲して好く築造してゐるには感心した、其の屈曲場所の餘地ある處には大抵、小植樹地帯を設けてベンチなど置いてあつた。

ゼノアからミラノに行く汽車は電化してあつて實に乗心地の好いものであつた、沿線の電柱が鑄鐵管の特殊の形(四段位に直徑を變えて上に順次小さくす)を用ひ其の電線を支持する腕が非常に長く、柱から支線(ステイ)を四本も引張つて居る所など特徴があつた、又途中混泥土桁橋のラーメン式の

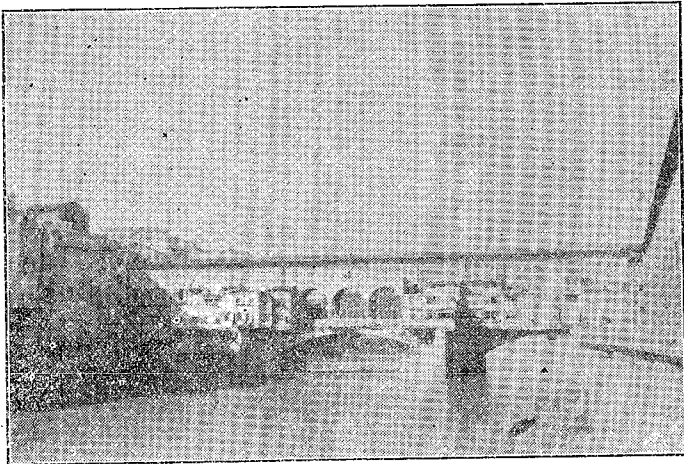
ものを二、三見て面白く感じられた、沿線道路は概して悪く自動車は砂塵を揚げて走つて居る、汽車がロンバルデア平原に進むに従つて、次第に多く桑樹を見て日本と同様養蠶業の行はれてゐることなどが漫ろに懐かしく思はれたミラノは伊太利第一の商工業都市であるだけに道路も大部分アスファルトで鋪装した立派なのを見たが、矢張石鋪装(ゼノアと同様大矩形石を斜に用ひたるもの)が相當多く或る場所には昔の遺物と思はるゝ玉石鋪装(土砂地盤に小玉石を點々植え込んだもの)で、それには車輪幅の處に二列に板石を並べてあつて、場所に依つては歩道はなく車道だけで、而も其の道路の中央が凹んで雨溜溝を中央處々に作られてあるのを見た、それが即ち中央排水の一例であつたのだ。ミラノの大寺院墓地が總て大理石の美術的彫刻から成つてゐることは、驚異の大なるものであつた。ミラノから附近郊外に至る立派な自動車専用道路が、最近計畫せられたことを聞いたが、其の規模も相當大きく一般から通行料を徴する(其の額は僅に本道を利用することに

依つて利するガソリン消費の一部に止む) 所謂營業道路で

ことが出来ない譯だ、

然し是等の太鼓橋も日本のそれとは

あつて其の實現に對しては、首相ムツリニ氏が特に力を用ひたそうである、自動車道路發達の遅れたる伊太利に於ては、誠に適切な計畫と思はれる。水都ヴェニスには車馬の交通する路が全くなく、運輸交通が總て水路に依れることは有名なことだが、これを現實に見て今更ながら其の特異な交通路であるに感心した。其の交通機關たるゴンドラは評判ほど美術的でなかつたのに失望したが水路の兩岸に接して築造されたる立派な美術的、大厦高樓にはやつぱり驚いた、舟運のために大小の水路に架する總ての橋が、日本の太鼓橋式になつて居るのでこれでは道路があつても、車は橋を通る



フロレンスの屋敷のあゝる重橋

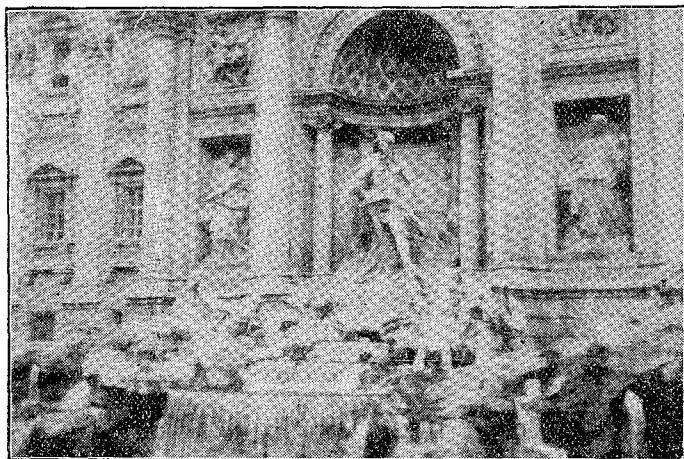
對に歩道の中に入れない様にしたのだらう、フローレンス

變つた趣きで、なか／＼立派に美術的に出來てゐる、サンマルユ寺院内のモザイク美術の巧妙なるには驚いたが、之まで度々述べた道路鋪裝にモザイクを應用する様になつたのは是等にオリヂンがあるのではないかと思はれた、ヴェニスからフロレンスに行く車上から見たる道路は相變らず、悪く砂利碎石道が大部分で日本の道路と大差がない、そして殊に興味を感じたのは歩車道堺に石柱を埋めたのみならず、道路の兩側歩道の部に或る間隔に道路の方向と直角に二本乃至三本位の石柱を立て、居ることであつた、是は車馬を絶

は伊太利繪畫の中心地として知られた所で、幾多の美術館

であらうにと思ふた。ローマは伊太利の首府としてからも、

寺院等には唯々感嘆する許りであるが、市街道路の車道は矢張多く板石鋪裝で歩道は狭くて通行に苦しむ位である。フローレンスを流るゝ河に架した橋梁に一ツ變つたものがあつた會つて瑞西ルツチエルの橋梁に記した様に上に立派な建築の屋根を有するもので、階上には美術品等を陳列して居た、フローレンスの山手を馬車を驅つて廻つて見たが一帶樹林又は閑雅な公園地でフローレンスの町を瞰下し沿道の街路樹もなかなか綺麗であつたが、路面は砂利道の儘であつた、それが亞米利加あたりであつたなら、アスファルトか混泥土などで立派に鋪裝した自動車ドライブの道路が出来上る

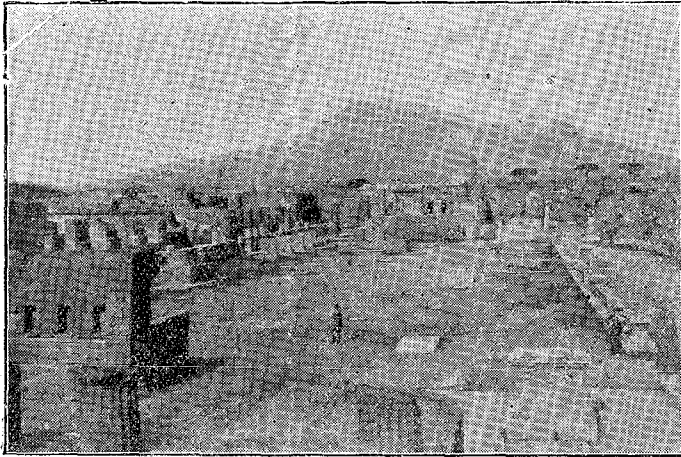


ローマ大噴水

で大きかつたが兩端の出入口、内部の裝飾などなか／＼派な道路の隧道があつた、幅員も相
古代ローマ文明の發祥地として又例のセント、ピーター寺やバチカン宮殿等の偉大な建築、繪畫、彫刻等の所在地として、有名な場所であることは特記する必要もない、ローマは古い市街だけ随分狭い道路もあり、且つ歩車道の區別がなく日本と同様に道路一面に人が歩いて居る處も見た、然し石塊(獨逸に見た小形のモザイック式)やアスファルト等新式の大道路も大分出来て居て殊に伊太利をオリヂンとされて居る、ソリヂェット鋪裝(ブロック鋪裝)も方々に見えた、ローマの市内に於て一ツの立

綺麗であつた、ローマ市内の各處にある大噴水は實に立派なものでローマ市外にある、アクイアダクトと共に古代ローマの水道の遺物として有名なものである、ローマには橋梁もアーチが相當古くて、彫刻物の裝飾を施した立派なものが若干あつた、ローマから郊外に至る道路の中アツピア街道と稱するものは、(歴史的に有名な古い道路昔ローマの道路は世界に通ずと謂れた時代の代表的のもので)遠く小アジア・トルコ方面まで達してゐるとのこと、自分は其の一部ローマから出口附近を、自動車でドライブして見たが、近代的自動車道路としては、價值が少い様に思はれた。

ナポリは伊太利南部の大都會にして且つ主要な港だけに



死市ポンベイかベリスオ火山を望む

立派な街で、道路は矢張大石板の舗装が多いが海岸通公園附近の道路はアスファルト(獨逸と同じスタンプアスファルトのやうであつた)で立派に舗装されてゐた、ナポリの南の死市ポンベイは歴史的に有名な處、興味あるものゝ多い中にも此ポンベイに二千年前に既に立派な道路(歩車道の區別を設けた)を築造し車道は大石で舗装し、處々に一方の歩道から他側の歩道に渡るために、踏石を置いてあるなど變つて面白い、其の外二千年前に既に立派な水道や下水を設けた跡があり建築、美術醫學、衛生、娛樂等現代文明との距離が、そんなに遠くないまで發達してゐた有様を窺ひ知るこ

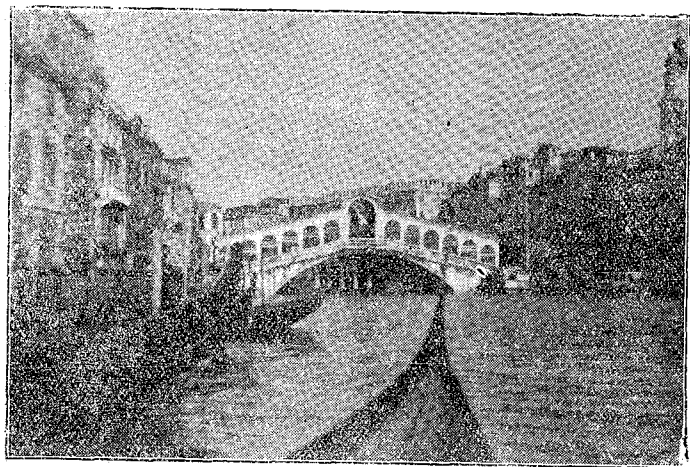
とが出来た。二千年の昔ポンベイ市を埋没したベスピオ火

山は今尚ほ盛んに活動して居り、世界的旅行會社として有名なトーマスツク經營の驚くべき

の他昔ローマの道路は世界に通ずと謂はれたものも現在

工事のケーブルカー（山頂の急勾配二分ノ一に達す）に乗つて頂上の噴火口に達し、其の濛々として凄まじい噴煙を見て死市ボンベイの惨状と對稱して感慨無量であつた、伊太利旅行中全土を通じて感じたことは停車場やホテルのポーター、自動車の運轉手や見物箇所ガイド、博物館、美術館さては寺院等の番人に至る迄一般にチップや物貰の乞食根性が多く、私達貧乏旅行者のことゝて實に不快を感じた、然し最後にナポリからボンベイ及ベスビオ火山見物に案内して呉れた有名な日本人専門のガイド、アントニー君は例外で氣持の好い人であつた。其

となつた、再度ポルトセイド、スエズ、ロンボ、シンガポ



橋 鼓 大 と 路 水 の ス エ ザ

は自分が今迄旅行して來た國々の中で、一番悪いやうに思はれたこと（都會は別として）及首相ムツソリー（都會は別として）の勢力下にある異様の服裝をしたファシスト團の至る所目立つた行動なども大なる印象を與へられた一つであつた。誠に首相ムツソリーは現代の世界的大人物に相違ない、彼の總ての方面に對する意志の強い行動は普く知られた所だが、我が道路の改良に就ても近時彼の努力は非常なものであるらしい。

十二月一日ナポリ港上から繪のやうなベスビオの噴煙を望みつゝ懐しの歐洲に別れを告げて諏訪丸上の人

ール香港等に寄港し日数を重ねて十二月三日上海に着し、此處で下船滞在すること三日間、十二月六日朝長崎丸に乗り十二月七日正午（去る一月八日横濱を出てから十一ヶ月目）に長崎に着いた。ナポリを出帆してから紅海や印度洋の暑熱に苦しめられながらも、甲板遊戯、プール水泳、室内娛樂等に耽つて一ヶ月餘りの長い單調な海上生活も、案外に飽かない面白いものであつた、殊に比較的波靜かで船酔もせず食堂も一回も缺かさず、食慾極めて盛んに乗船當時から幾分肥つたやうにも覺えた幸福さ、然し此航海中唯一の不快の出來事はシンガポール碗泊中夕食時に乗客（デツキバツセンヂャー）の支那人が刃傷沙汰をした爲に船員に一名の死亡者と四名の重傷者を出したことであつた。

寄港地の風物に就ては此處に書くことを要しないが、殆ど至る處英國の勢力下にあることが、痛切に感ぜられ、そして何處も殖民地ながら相當立派なアスファルト舗装道路を築造し、日本諸都市も及ばざること遠きを思はしめた。英國の殖民地を拓くや何よりも道路を改良して土民を收攬

する方針を取つた所など流石に感心の外ない。シンガポール、香港などには遠い郊外、山中、海岸等に至るまで實に氣持ちの好い自動車道があつた、シンカポールのジョウホール行道路、香港の島廻り道路など誠に立派だ、スエズ運河の土木工事に就ては航行船上から技術上目立つたものも見出さなかつたが、處々に作業して居つた變つた形の淺濶船の模様など目を引いた、アフリカ廻航の時間と燃料とも節約し得、海運界に一大革新を來した運河の價値を思ひ、開設者レセツプの功勞に敬意を表すると共に折角佛人の手になり當然佛國の手中に握らなければならなかつた此運河も、今は英國の實權に陥つたのを見て轉英國政策の巧妙なのに感心させられた、尙ほ寄港各地の街路に就て氣付いたことは、シンガポールで四辻に立つてゐる土人の交通巡查が、藤のやうなもので作つた長い板を背中に縛りつけて、自分と共に回轉しながら方向を示して交通を整理して居るのは滑稽に見えたが、殖民地の土人を利用するに相應しい思付であること及コロンボ及シンガポール等で多くは支那

人町だが歩道上にバルコニーの柱又は屋根を作つて居るのと等でこれは歐洲二、三の町で見たのと同様、バルコニーは冬の降雪に都合よく屋根は暑熱の日除けや驟雨除けに都合が好いのだろうと思つた、又シンガポールは殖民地ながら自動車の多いことや上海で、無軌道電車の走つてゐることなど特に目を引いた。シンガポールも上海も支那人町の汚いことを痛感し、道路の善惡に依つて、其の國の文明程度を知るの言を思ひ浮べた、但し上海は租界主要道路は舗装してあるが、支那人町附近は舗装せない道路が多く、爲に降雨に際し泥濘を極め、是等の汚物の爲にそれに接續した舗装道路面迄も覆はるゝ有様で、こんな状態は舗装せない所のない歐米の道路には見られぬことである、最も歐米では朝晩水道の水を流しなどして迄も掃除するので殊に綺麗ではあるが、コロンボ以來、人力車が如何にも非文明的に見える、其の車夫が草鞋は愚か跣足で走つてゐる様を見ては故國を顧みて、くすぐつたくなつた。上海の手押一輪車は殊に滑稽に見え、又上海の乗合自動車はなか／＼大きいが汚い

こと夥しいコロンボからシンガポール、香港等の間に船上に乗せられたデツキバスセンター（印度人、支那人）の生活状態はまた興味あるものゝ一ツで、裸體、坐居、食事など彼等の習慣が滑稽であつたが笑ひごとではない、どうかと云へば私達日本人に甚だ近い、然し彼等の體格が、概して貧弱なことは、各地の勞働者などで見られこれでは生存競争に劣敗するのは必然で、是等の原因は氣候、風土、食料等の關係が與つて力あるやうに思はれるが、白人に後るゝことなき覺悟が必要となると同時に吾人は體格の點に於ても一段の努力を要することゝ思ふ。ボートセイド以來至る處、英國の勢力の大なることは、前述の通りであるが、日本も亦大分殖民貿易等に勢力が伸びつゝあつて、至る處相當日本人の店があり、郵船大阪商船を始め多くの日本汽船が航行碇泊せるを見て、自ら心中愉快なるを覺え、往航布哇や米國で排日の聲に癪に障つたと云泥の差だ、今や人口増加を以て苦しみつゝある日本は一層此方面の海外發展に力を注ぐ必要があらう。